

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970200230		
法人名	社会福祉法人 甘樫会		
事業所名	社会福祉法人 甘樫会 あまがし苑高田		
所在地	奈良県大和高田市神楽3丁目11番13号		
自己評価作成日	平成27年2月10日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	ex.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2970
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良市登大路町36番地
訪問調査日	平成27年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事の栄養バランスについては、管理栄養士に相談し、カロリーや塩分・糖分・脂肪分などの摂取過多のないように管理している。
 日頃の健康管理も含め身体に異常が発生した時は、24時間体制で往診可能な医師に主治医となって頂いており、電話での相談往診及び緊急時を含め他の病院への紹介など早急な対応が可能である。
 毎月、行事担当の職員が四季折々の外出・催し物を利用者様に楽しんで頂ける様工夫。又、御家族との絆を大切に交流会を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近鉄大和高田駅から北へ徒歩12分の便利な所にある。すぐ前にスーパーがあり、周りにはまだ田畑が残っているのかな雰囲気もある。2階建ての建物の1階部分がデイサービスで、2階が2ユニットのグループホームになっている。昨年、隣接して地域密着型特別養護老人ホームが建設され、地域の期待が寄せられている。法人理念である「安心快護」を掲げ、利用者の不安をなくして、安心、安全、快適に暮らせるように努めている。食事は1階デイサービスの厨房から運ばれるので、職員はその時間を利用者の見守りとケアに余裕を持たせている。外出支援にも力をいれており、昨年の家族交流会は地元大和高田の大衆演劇「弁座」を観賞し、利用者・家族・職員皆で楽しんだ。「いっしょに笑お、ゆったり暮らそ」を合言葉に、笑顔あふれるグループホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念である「安心快護」に加え地域密着型サービスとして理念を追加。住み慣れた地域や馴染みのある人との関係を大切にしている。	利用者の不安をなくして、安心、安全、快適に暮らせるよう「安心快護」に努めている。職員は毎日の朝礼や終礼時に「今日も一日安心快護をお願いします」と声を掛けあい、利用者のケアにつなげている。	昨年独自に作りあげた地域密着型サービスとしての理念を利用者や家族に示し、理解してもらうためにも、重要事項説明書の理念の項目に追記が望まれる。
2	(2)	平成27年2月10日 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の挨拶や避難訓練、行事にあたり近隣の方々に説明に伺う。地元の自治会や宮講の皆様には毎月苑だよりを送っている。地域の祭りや花見に参加。	自治会の一員であり、地元の職員が多いため地域の情報が得やすく、大中公園桜まつりや勝手神社の夏祭りなど地域の行事を利用者と共に楽しんでいる。買い物や散歩中に近隣の方や菜園を作っている隣家の方と挨拶を交わっている。昨年近隣中学校の職業体験学習を受け入れた。	地域の方にグループホームの様子を知ってもらうために、地域のボランティアの受け入れや、近隣の幼稚園・小学校の子供たちと交流を図るなどの取り組みが望まれる。
3		http://www.kaijokenstaku.gr/29/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kanetsu&JigyouCd=297020020-01&PrefCd=29&VersionCd=02 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム機能を入所者のケアに配慮しつつ、地域に開放している。認知症の理解や関わり方についての相談・応答、家族やボランティア等の見学や研修などの受入等。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	7月に運営推進会議を行なった際は、神楽の総代・介護保険課の職員の方に行事などの写真を取り入れながら活動を報告。総代を中心に色々な意見を伺った。	年1回、自治会代表、市職員、地域包括支援センター職員、家族の参加をえて、運営推進会議を開催している。施設運営や活動の報告、災害時の近隣との協力体制について話し合わせ、新設特別養護老人ホームについての質問に答えている。	昨年同じ敷地内に、地域密着型特別養護老人ホームが開設され、地域の期待が寄せられている。これを機会に地域に開かれたグループホームを目指して、運営推進会議を2か月に1回の定期的開催が望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	非定期では、市役所を訪れている。また、地域包括や介護保険課の方から入所させたい利用者がおられた場合等、空き状況の確認や入所の相談を頂いている。	事業所内での介護認定更新時に市職員との情報交換や介護保険課、地域包括支援センターからの入所相談時には特に綿密な連絡を取り合っている。市担当課へ月1回発行しているホーム便りを届け、情報を提供ができればなお良いと思われる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議やスタッフ会議で勉強会を設け、職員全員に理解させている。	職員研修において身体拘束となる行為について周知徹底している。夜間は感知式ライト・すずを付けるなどして拘束しないよう工夫している。利用者の安全確認ができる範囲は施錠をオープンにしているが、目の届かない2階から1階へのドアは事故を防ぐために施錠をしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議やスタッフ会議で勉強会を実施。朝礼・終礼でも話し合いを行っている。身体だけでなく、言葉の暴力も無いよう、常に注意を払っている。入浴時や更衣時は身体チェックを行い、傷やあざが出来ていないか確認、異常があれば報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議やスタッフ会議などで勉強会を設け、職員全員に理解させている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際は契約書・重要事項説明書を中心に、特にトラブルになりそうな項目についてはあらかじめ十分に説明を行い納得して頂いている。入所後に発生した利用者や家族の疑問や不安なことについても、十分話し合いを行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日頃から伺っている。家族に関しては面会や面談時に意見をお伺いしている。その際簡単な要望であれば、その場のスタッフの判断で行い、その後管理者に報告している。必要に応じて会議で話し合いを行っている。また施設に話しにくい場合は地域包括支援センターへの相談も可能と説明している。	年1回行事を兼ねた家族交流会をしている。家族は普段から事業所に行きやすいと感じており、面会時には利用者の意見や希望を聞きやすいように、職員は利用者家族と同席し、ゆっくりと話を聴くようにしている。毎月家族に事業所便りを送付し、一筆箋にて近況を伝えている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・スタッフ会議、主任による個人面談を設け、職員全員の意見が反映できるよう取り組んでいる。また、主任とは運営について何かしらの会話を行っている。	職員は2ヶ月に1回の全体会議と月1回のスタッフ会議を通じて管理者、主任と意見交換やケアの提案をしている。主任は朝礼や終礼時にも気軽に話す機会をもうけている。最近では、利用者の席替えについて話し合いを行なった。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職の処遇改善手当の交付をはじめ、業務態度や内容を見極め責任のある職務につけている。また資格試験の紹介や斡旋、研修などの参加を促している。職場間の異動の希望も受け入れている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の全体会議で計画的にOJTを実施している。入社後3年以上経過したスタッフには認知症実践者研修の参加や主任や中堅スタッフには社外研修に参加させている。また、事業所に紹介があった研修は事務所のカウンターに掲示し社員全員に知らしめている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会の奈良県支部に加入し、同業者の懇親に努めている。またお互いに協力し合いながら、活動を通じてサービスの質を向上させていく取り組みも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	過去から現在に至るまでの経緯・原因を把握し、利用者とコミュニケーションを取りながら本人に寄り添った支援をさせて頂いている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネージャー等が家族を訪問し、困っている事や不安、要望を聞き出し、対応について細かく説明を行い、安心・納得して頂いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談などで事前に知り得た情報を介護スタッフ等の参加するカンファレンスで話し合い、介護保険以外のサービスの利用も検討している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができる事はして頂いている。利用者の特技や趣味をレクリエーションに取り入れ利用者から調理・園芸・短歌などを教えてもらう機会を設けている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話などの連絡を密にし、家族の気がかりな事・意見・希望などを職員に気軽に相談してもらえようようにし、また面会時に声掛けをさせて頂いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	初詣は、地域の天神社に参拝して頂いた。交流会では、御家族と一緒に大衆演劇を観賞していただいた。決められた面会時間以外でも、御家族や知人に気軽に訪問して頂いている。	以前の仕事仲間が面会に来たり、家族と年末年始に外泊をしたり、墓参りをする方もいる。地元の馴染みの場所にも外出している。昨年はある利用者の家族がオカリナの演奏会をホームで行なってくれた。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日レクリエーションを行い、利用者同士が一緒に楽しめる環境を作っている。利用者のADLや利用者同士の相性を把握し、フロアの席についても配慮している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりを必要とする利用者に対しては、同事業所居宅介護支援のケアマネージャーに、継続を委託して、病院や退院後の施設の斡旋・紹介を行っている。また、過去の実績として一度退所された利用者を約2年後に再入所していただいた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が担当する利用者に日頃からコミュニケーションを取るようし、会話の中から希望・要望を把握するよう努めている。本人らしく生活が送れるよう努めている。	本人、家族から嗜好について聞き取り「嗜好調査表」を作成し、より良いケアに努めている。本人が笑顔で快適に過ごせるように職員も笑顔の会話で思いを聞き取っている。孫の美容院に行きたいと希望する利用者もいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には家族の方・利用者にお伺いしている。センター方式も活用し把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者ひとりひとりの残存機能に着目し、できることはもちろん、できそうなことにも声掛け・見守り介助を行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族のニーズを主に介護計画に反映している。また、入居者毎に担当者を決めモニタリングを実施している。必要に応じ主治医に意見を求めている。利用者・家族の思いを叶えられるような介護計画の作成に努めている。	介護計画書はセンター方式を活用して本人のニーズを引き出し、家族や職員と話し合いの上ケアマネジャーがプランを作成している。利用者毎に1週間の身体状況を記録し、それぞれの介護計画の項目についても評価している。また1ヶ月毎にモニタリングし、再評価へつなげている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の変化・気づきを個別に記録。職員間で朝礼・夕礼で申し送り随時カンファレンス行ない対応している。また、介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療保険を使った按摩やりハビリの紹介を行ったり、外泊、旅行、希望病院への受診支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、消防、民生員やボランティアの方の協力を得て、安全な生活が送れるように支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	休診日以外は、毎日苑のかかりつけ医の往診がある。かかりつけ医以外に、個々のかかりつけ医・歯科・眼科・皮膚科受診の支援も行っている。また、御家族にも協力して頂いている。	本人、家族が希望する医師への受診は可能であり、近隣の受診は職員が付き添っている。その他の利用者はホーム協力医療機関の医師の往診を月2回受けている。利用者毎に介護サマリーを作成し、緊急時には医療関係者へ情報を提供できるようにしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	吉川診療所の院長と看護師の2名が休診日以外、毎日往診に来た際に、健康状態を伝え管理してもらっている。また隣接のデイサービス・特養の看護師にも相談し、協力も得ている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医より入院の際は紹介状を書いてもらって医師同士の専門的な情報を提供していただいている。入院の際には、生活面での情報や介護サマリーを提供している。また病院の相談員と退院に向けての施設の受入体制についても相談を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族(本人)に希望をきいた上で、担当医を交え施設として出来る事・出来ないことを説明、医師のバックアップできる内容を確認し、終末期にむけ施設の方針や医師の協力の内容を説明し支援している。	契約書に看取り指針を掲げ、「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成し、家族に説明している。現実には医師が老衰と診断した時点で、家族と「看取り介護についての同意書」を交わし、終末期ケアを行なっている。家族の支援も仰ぎながら、昨年一人の看取りを行った。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	OJTにて、応急手当やマニュアルに沿った対応の勉強会等を年1回行っている。また事故発生時には原因を追及し、再発防止に取り組んでいる。AEDの使用法の講習を受けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルの設置。避難場所、変更の為、経路・場所の確認実施。自治会の消防団との連携を図っている。	昨年新たに小規模多機能型サービスが併設されたので、避難経路や場所が変更になった。夜間想定避難訓練も行なっている。運営推進会議で地域の消防団に災害時の協力をお願いしている。近隣に住む職員も駆けつける体制がある。災害時に備え飲料水など2日分を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方々に対しては敬語での対応をするよう施設の方針として言葉掛けには特に気をつけている。OJTで接遇、パーソンセンタードケアについて勉強会を実施。利用者を一人の年長者として敬い尊重できるよう努めている。	プライバシーに関して職員研修を行い、日ごろからトイレ介助時にドアを閉める 入浴時は同性介助する 便失禁時をさり気なく介助するなど実践している。居室ドアのガラス窓にカーテンをしたり、居室ドアの鍵をかける利用者があるなど、一人ひとりのプライバシーを尊重している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションの中で思いを聞き出している。利用者の個性も把握し、利用者本人が希望を表出しやすいような環境作りに努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に沿って一日過ごして頂いている。利用者の要望に沿って、個別レクリエーションを実施。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、整髪の声掛け援助を行なっている。化粧が好きな利用者には、外出の際に化粧をして頂いている。外出・入浴時の着替えの際はお好みの服と一緒に準備している。散髪も利用者自身の希望を聞いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を実施。利用者に合わせて食事形態、盛り付けを工夫している。(咀嚼・嚥下、体調にも配慮している)菜園で採れた野菜を使って調理している。食事の片付けもできる方と行っている。	ご飯とみそ汁は各ユニットの台所で作っている。おかずは1階の厨房で調理しているため、職員はその時間を利用者の見守りとケアに余裕を持たせている。朝食はパンやおかゆや雑炊など工夫している。おやつは各自で準備し、2階のベランダでお茶を楽しむこともある。節分の巻き寿司や誕生日会の行事食もある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、午前・午後、入浴後は水分補給を行っている。食事・水分摂取のチェックを行い、摂取状況の把握を行っている。飲水量の少ない利用者には決められた時間以外にも提供、摂取カロリーが低い利用者には栄養補助食品を提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、総入れ歯の方には義歯洗浄・うがいの声掛け、自身の歯が残っている利用者には、仕上げ磨きのケアを実施。夜間に入れ歯洗浄剤による消毒・洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンを把握し、排泄パターンに応じたトイレ誘導を行っている。できるだけオムツを使用しないようにしている。居室にポータブルトイレを設置し、自立に向けた支援を行っている。	利用者の半数は自立排泄である。布パンツと紙パンツ利用の方もタイミングを合わせてトイレ誘導している。夜間オムツ対応の方は2名で、居室にてのポータブル使用は3名である。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分補給を行っている。利用者の状態を把握し、主治医と相談し対応している。食べ物の工夫や散歩など運動も働きかけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中は1階の大浴場で入浴を楽しんで頂いている。また、個人の状態に合った入浴方法を行っている。2階ユニットでも入浴を行っている。季節により、菖蒲湯・ゆず湯等も楽しんで頂いている。	月曜日から土曜日の間で午後1回入浴している。1階のデイサービスの大浴場は、たっぷりのお湯が溢れて人気があるが、2階ホームの玄関から一旦外に出てから1階に降りなければならないので、寒い時期は利用者の体感を考慮すれば、2階ユニットの個浴室を使い個別にゆっくり入浴できれば良いと思われる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、利用者一人ひとりに応じて居室で休んで頂いている。消灯は基本21時だが、居室やフロアで過ごして頂き、好きな時間に眠って頂けるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の説明書を管理し、利用者の症状と処方されている薬の効能について理解している。利用者の服薬管理は職員が行っている。便秘薬は排便状況を把握し、状況に応じて主治医に相談し、用量を調節してもらっている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活で水やり・畑仕事・家事の役割をできる範囲でして頂いている。散歩・買い物・ドライブなどの気分転換も行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者が希望する所に外出できるよう支援している。季節の名所などは行事に取り入れている。祭りなどは地域の方々や開催者の協力を得ている。また、家族による外出も支援している。	事業所の庭で家庭菜園を楽しんでいる。近隣にできたスーパーへおやつを買いに出かける時や、散歩時には近隣住民と挨拶を交わしている。1階への移動は外気浴になっている。受診で外出の際、家族と外食する方もいる。車いすの方も季節の良い時は馬見丘陵などに外出したり、「福祉まつり」のショーや大衆劇場「弁天座」の観劇を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る入居者についてはお小遣い程度のお金をお持ちいただいている。それ以外の入居者については、普段はお金のトラブル防止の為、お金は持たないようにして頂いているが、買い物や行事に出かけた際には利用者にお金を渡して支払いをして頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望や力に応じて、家族等への電話や手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に整理整頓・清潔を保ち、混乱を招くような刺激がないよう配慮している。ユニットの飾り付けは季節感を取り入れ、入居者の好きな花など以外の季節外れな飾り等は外すように心がけている。	南北縦長の廊下に3か所のリビングがあり、利用者はそれぞれに分かれて寛いでいる。壁面には各自の季節の飾りや習字が貼られている。長い廊下を利用して歩行リハビリを行い、達成出来たらシールを貼ることにより、利用者毎の励みになっている。廊下の天窓からは自然光が入ってくる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ユニットの扉は開放し自由に行き来できるようにしている。それにより一人になれたり、気の合った利用者同士がおもいおもいに過ごせるような居場所が確保されている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の備品だけでなく、馴染みの家具や食器を持ち込んで頂いている。居室も利用者本人の好みに合わせて居心地の良い空間づくりに努めている。	居室はフローリングの部屋と畳の部屋がある。室内から施錠でき、ドアのガラス窓にカーテンをしてプライバシーを確保している方もいる。使い慣れた家具・テレビ・アルバムを持ち込み、趣味の作品で飾り、ゆったり過ごしておられる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各ユニットのフロアーに、利用者と職員と一緒に作成したカレンダーを貼っている。トイレ・居室は識別できるように表示している。ひとりひとりの出来る事・わかる事を活かして安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		